頁	行	誤	正
55	下15	T.S.Pineo "Pineo's Primary Grammar of the English Language ～ The Conjunction, The Inaterjection ～ which distinguish the *time* fo what it affirms. (yesterday, or last week, or many year sence)	T.S.Pinneo "Pinneo's Primary Grammar of the English Language The Conjunction, The Interjection ～ which distinguish the *time* of what it affirms (yesterday, or last week, or many year since)
66	上11	渡部約郎『皇国小文典』「問い第二未来は（明治十一年七月）不定法、顕示（＝直説法）、本法俗言ノ「デアラウ」デモアラウ」	渡辺約郎『皇国小文典』「問　第二未来は（明治十一年（一八七八）七月）不定法、顕示法（＝直説法）、本邦俗言ノ「デアラウ」「デモアラウ」
55	下20	栗野忠雄『英文典直訳』心なり。」	栗野忠雄訳『英文典直訳』心なり。」、メリの説明に、（行を続ける）
67	下11	メリの説明に、『詞玉緒延約』のラシの説明に、	『詞玉緒延約』のラム・ラシの説明に、
68	下19	福井　久蔵（一九四二・二）『国語学史』	福井　久蔵（一九四二・四）『国語学史』刀江書院
72	下19	一（よ）う」に相当する形として be/pe がある。	一（よ）う」に相当する形として be がある（直前の音によっては ge で出る。適宜 be/pe などと書く。
73	上11	/-gaNbe/となるが、形容詞の"終止形"は共通語で…（中略）…後者で代表させる）。よって"終止形"相当の語尾は	/-gaNbe～-gaQpe/となるが、形容詞は"終止形"について、東京方言の/-ai, -ui, -oi, -sii/に対応するものがおおむね/-ɛ, -ui（語によっては-ii が普通）, -oi, -suu～-sui（後者で代表させる）/となる：赤い/ag/; 古い/hurui/, 悪い/warii/; 黒い/kuroi/; 苦しい/kurusuu～-sui/。また語尾 gu（kute, …）がついた場合は次のようである：赤く/agegu～agagu/; 古く/hurugu/, 悪く/warigu～warugu/; 黒く/kurogu/; 苦しく/kurusugu/。「赤く・悪く」の併用形はいずれも前者で代表させる。したがってこれらの語幹は"agɛ%, huru%, wari%, kuro%, kurusu%"とする。また"終止形"相当の語尾は te のみ位置が異なるもの（ただし/-te/とッタイプで出ることもある）。
73	下8	teのみ位置が異なるもの。	（削除）
74	下8	不定法、顕示（＝直説法）、本法俗言ノ「デアラウ」デモアラウ」	たとえば東京方言では「アクセント素性…（中略）…2つの潜在核が語尾ごとに固有」。モーラの存在を認め、原則として モーラが核を担うものとして記述した。
75	上8	栗野忠雄『英文典直訳』心なり。」	
75	下16	メリの説明に、『詞玉緒延約』のラシの説明に、	
76	上15	このひかたいろ〳〵あれども研究者をいわゆる推量助動詞の陳述をなすに用ゐらるゝなり。」ム・ムズ・ラム・メム・マシ・福井　久蔵（一九四二・二）『国語学史』	
76	下7	一（よ）う」に相当する形として be/pe がある。	
79	下17	/-gaNbe/となるが、形容詞の"終止形"は共通語で…（中略）…後者で代表させる）。よって"終止形"相当の語尾は	
79	下14	144(51)(48) 9 22	
80	上18	147(48) 13	
83	上19	144(81) 15	
130(65)	表5	166(79) 14	
144(51)		21	
		sa終 かかる方言では「アクセント素性…（中略）…2つの潜在核が語尾ごとに固有」からである。モーラを認める。	